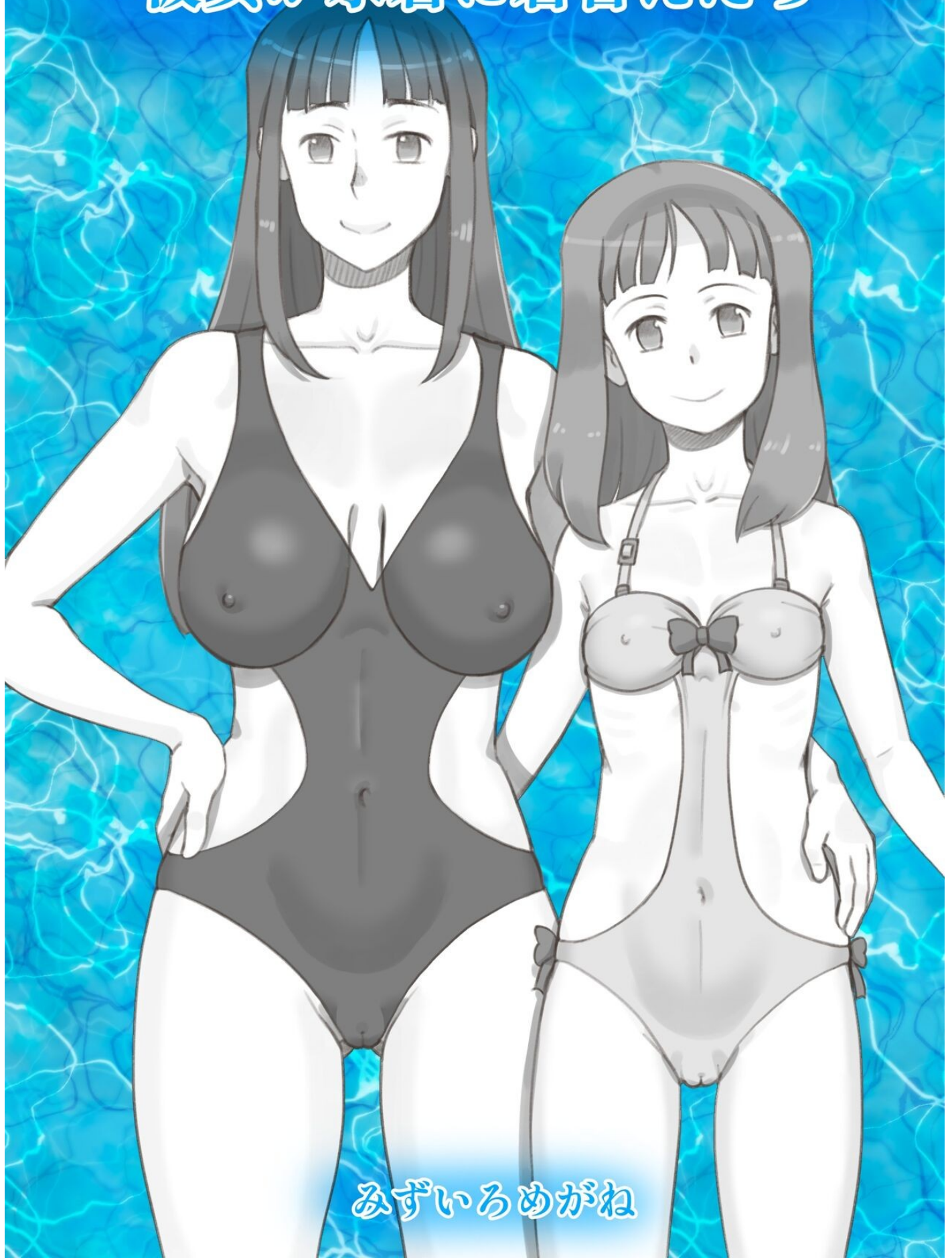


Girl on Mom

～彼女が水着に着替えたら～



みずいろめがね



◆◆◆◆ WARNING! ◆◆◆◆

あ、ど〜もこんちは〜
サキュバス子ちゃんだよ♡
お買い上げありがとねー。

今日はナンパに来てるんだ。
シングルのママさん狙い。
…いやあ、熟女もいいけどロリも良いね♡
あ、でも、見てるだけですょ？
その辺は魔族でも倫理があるんで。

ここから先は**成人向け**だから注意してね。
ちなみに**100%フィクション**ですので安心して。

…あ、あのママさんこっち見てる。
じゃあ、みんなも楽しんでね♪

へ〜い、か〜のじょ〜♡
あばんちゅーるはどお〜♡

Girl on Mom

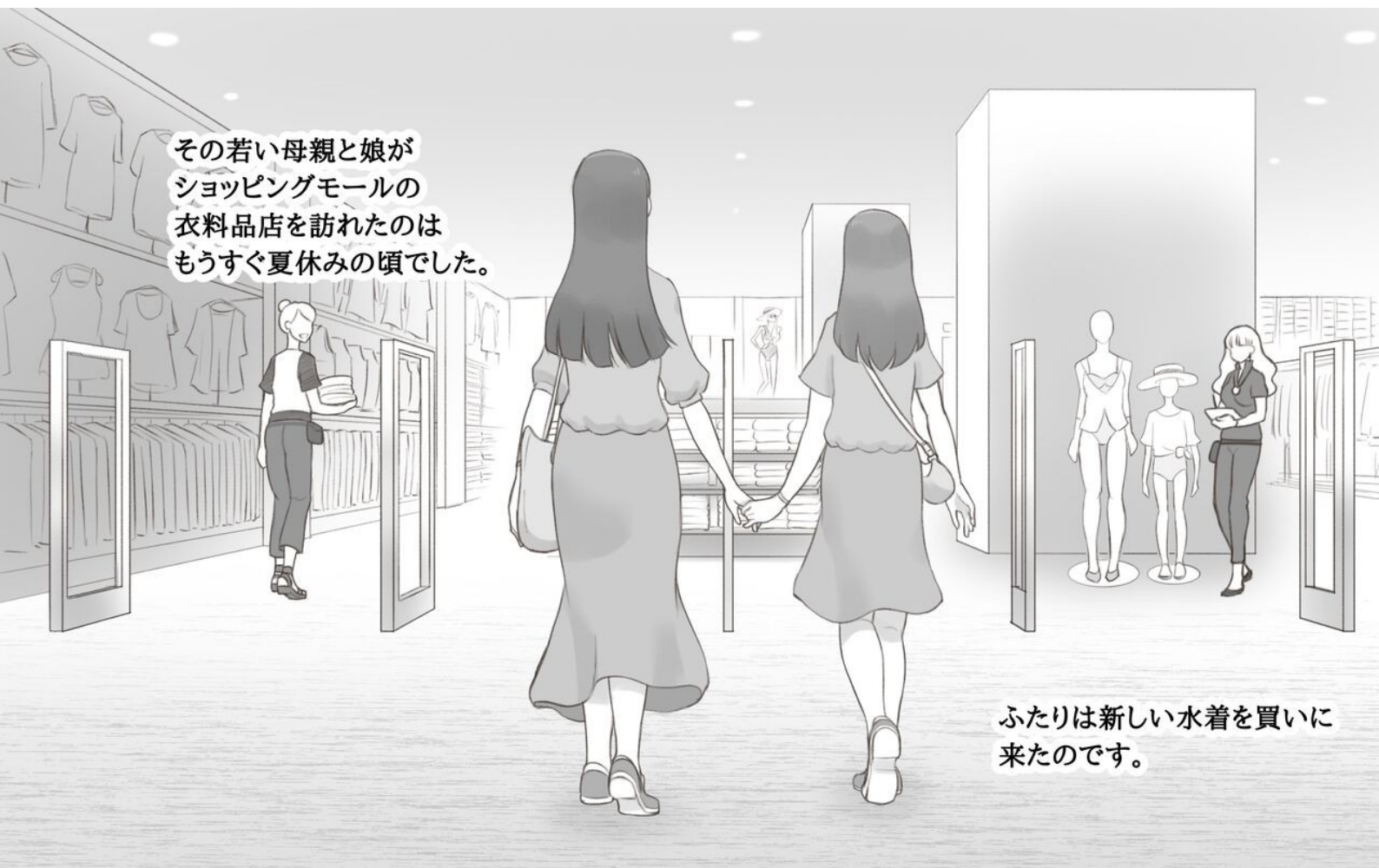
～彼女が水着に着替えたら～

♡ ヤホー! ♡



その若い母親と娘が
ショッピングモールの
衣料品店を訪れたのは
もうすぐ夏休みの頃でした。

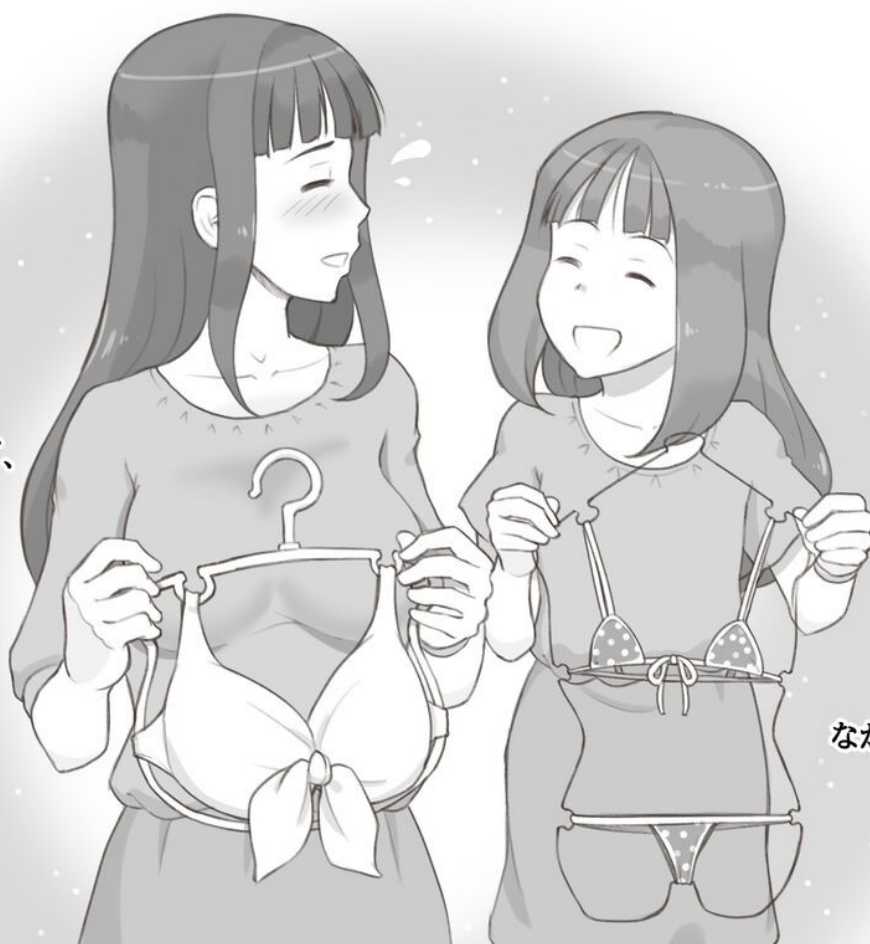
ふたりは新しい水着を買いに
来たのです。



ママさんと娘さんは
仲睦まじく会話して
います。

「ママ、これなんか
どお〜？ ママの好き
そうなの♥」

「う〜ん…好きだけど、
ちょっと大胆…
かな？」



ふたりは熱心に
水着を漁りました。

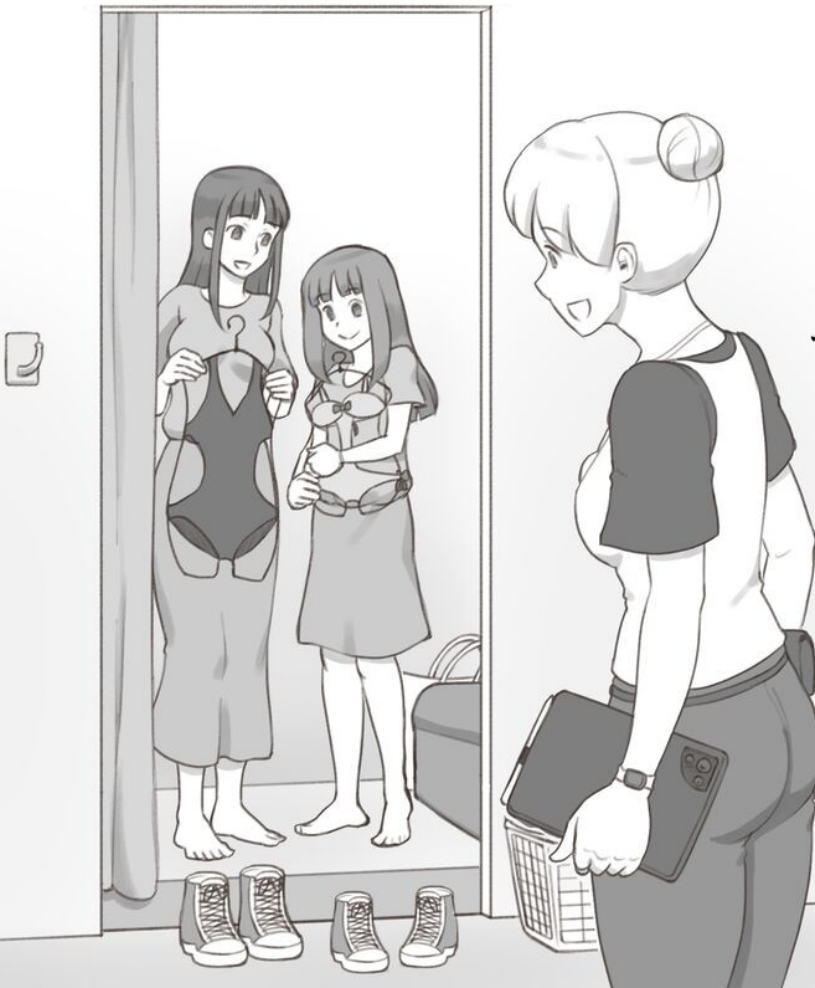
ああでもない
こうでもない…と
色々な物を選んで
お互いに意見を
言い合います。

なかなか決まりませんが、
ふたりは水着選びを
楽しんでいました。

ようやく水着が決まり、ふたりは奥の
試着室へ案内されました。

「お決まりでしたら、お声を掛けて下さい」

カーテンを閉めたら、そこはちょっとした密室。
ふたりは狭い室内でお尻をぶつけながら着替えを
始めました。





ママさんが脱ぐと
形の良いおっぱいが
ブラジャーから
こぼれ落ちました。

少し上向きに尖った乳房。
経産婦にも関わらず
色素の薄い乳輪…
いわゆるロケットおっぱい。

プ〇ルンッ♡

腰のくびれは
やや太めなものの、
大きなお尻と相まって
熟女の魅力的な肉体です♡

一方の娘さん。

スリと服を脱ぐと
現れたのは
ツルペタな肉体。

まだ発達途上の
胸の上に
サクランボみたいな
小さな乳首が
可愛く乗っています。

未発達のお尻まで
ストンと落ち、くびれは
ほとんどありません。

そのかわり
すべすべのお肌が
まぶしいです。

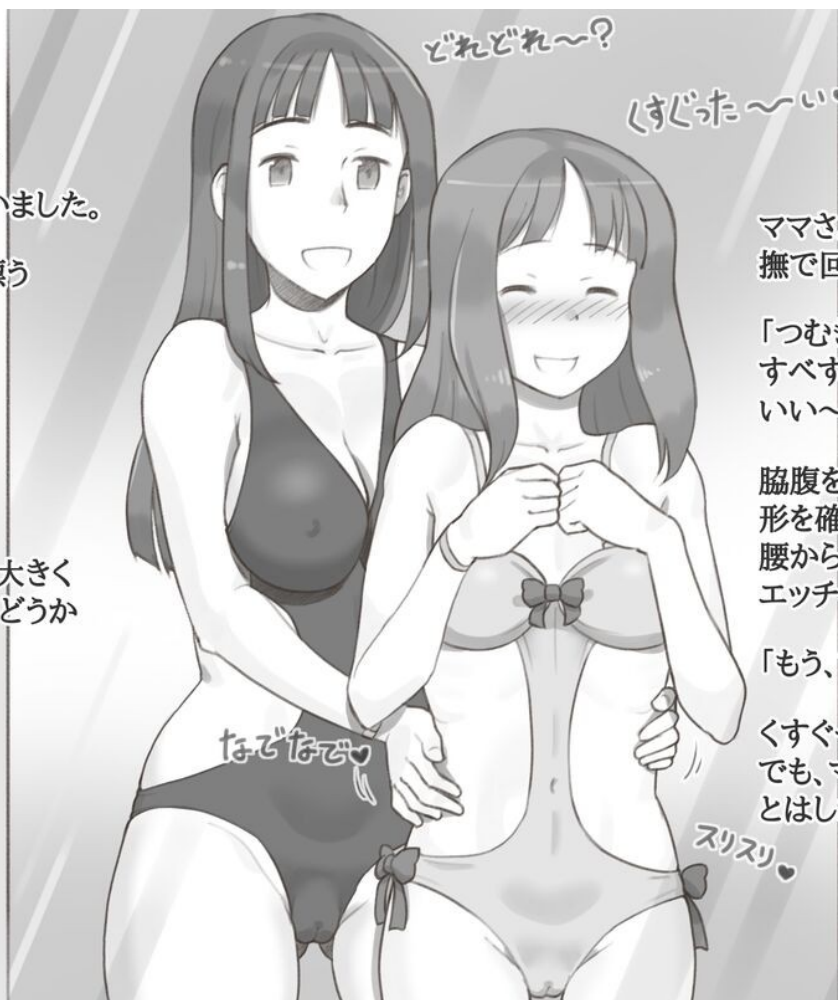
ツルンッ♡



ふたりは鏡の前に立って
お互いの姿を見詰め合いました。

ママさんは大人の色気漂う
セクシーな水着。
娘ちゃんは可愛らしさを
強調する水着。

「つむぎちゃん、また大き
くなった？ おっぱいはどうか
しら…」



ママさんの手が娘の体を
撫で回します。

「つむぎちゃんのお肌って
すべすべ〜♥ 触ってて気持ち
いい〜♥」

脇腹をそっとなぞり、おっぱいの
形を確かめるように両手で覆い、
腰から太股へ…なんだかちよつと
エッチな触り方。

「もう、ママったら…♥」

くすぐったそうな娘ちゃん…
でも、ママさんの手から逃れよう
とはしません。

「どれどれ…サイズは合ってるかな？」

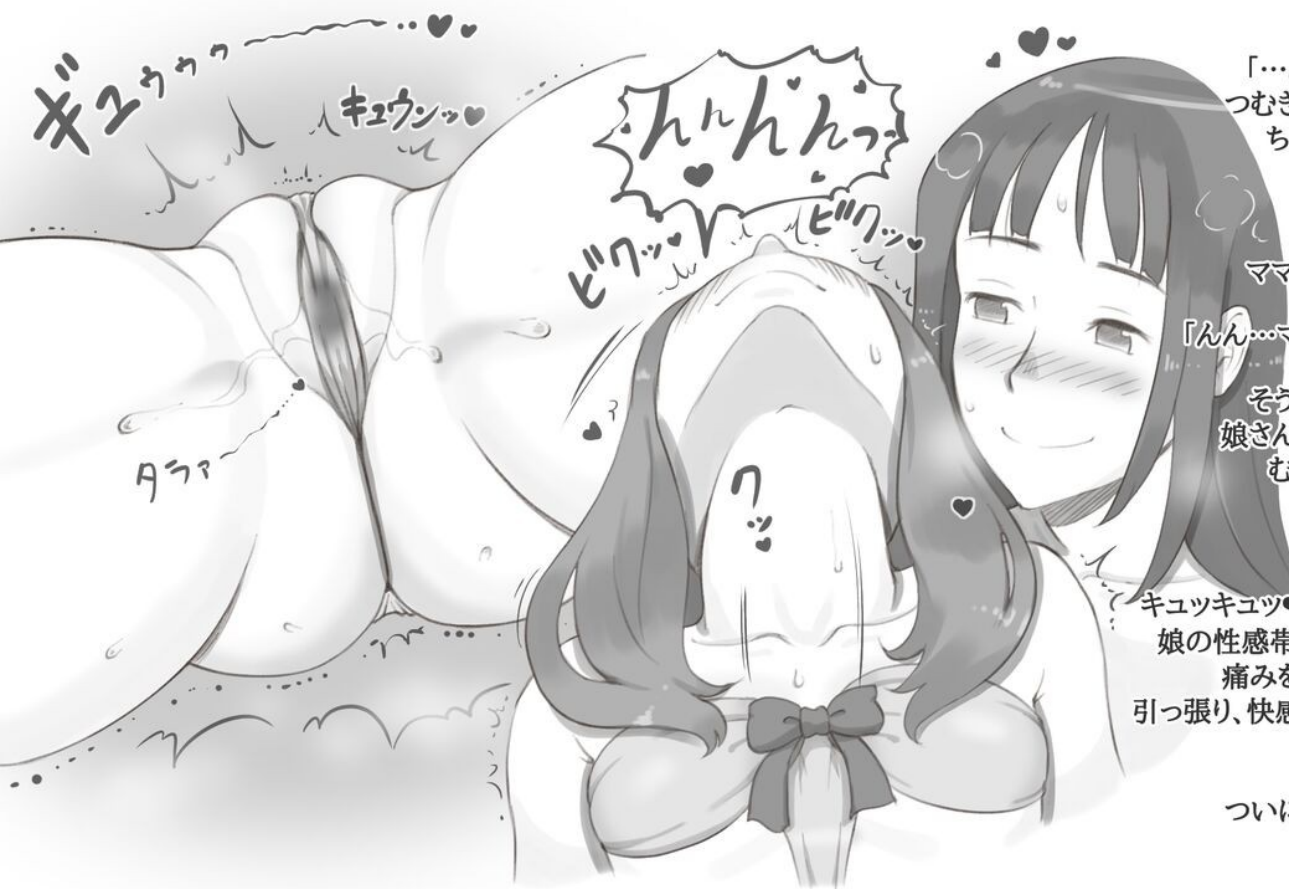
ママさんが娘ちゃんの水着に
手を掛け、そっと引っ張ります。
するとツルツルの股間へ
喰い込み、割れ目を
くっきりと強調しました。

「あ…ママ…♥」

娘ちゃんは嫌がる素振りも
見せず、ママさんのなすがまま…

きつきつの水着が
グイグイ割れ目を抉り、
クリトリスを巧みに擦ると、
お漏らししたように
じんわり濡れてきました…♥





「…あらあら？ どおしたの～
つむぎちゃん？ こんなに濡れ
ちゃって…もしかして感じ
ちゃってるのかなあ？」

少しイジワルな口調で
ママさんが耳打ちしました。

「んん…マ、ママのエッチ…い♡」

そう言いながらも、やっぱり
娘さんは逃げようとしません。
むしろおねだりするように
自然と腰が前へ出て
くるのです♡

キュツキュツ♡と搾り込むママさん…
娘の性感帯を熟知している彼女は
痛みを感じる寸前まで水着を
引っ張り、快感へ変えてゆくのです♡

あまりの気持ちよさに
ついに娘さんは軽いアクメへ
達していました…♡

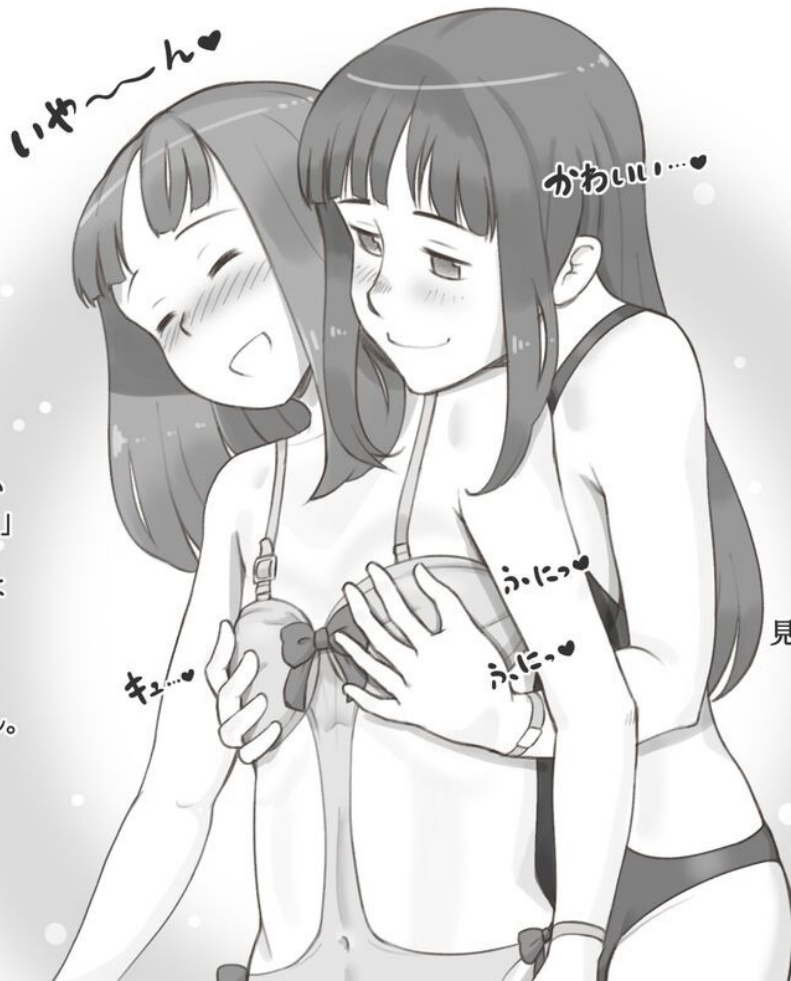
今度は胸をお触り。

ママさんの手がそっと
つむぎちゃんの胸を
覆います。
そして包むように
ふわっ…ふわっ…と
柔らかく握るのです。

「ここはまだだねえ。
つむぎちゃんもママくらい
おつきくならなくちゃね♪」

「やだもう、くすぐったいよ
ママ…♥」

さっきイカされた影響で
かすかに頬が赤い娘さん。



「…よかったらママが
お手伝いしてあげようか?」

甘い声でささやくママさん♥

「え…ここで?」

「ちょっとだけ。
恥ずかしかったら
お家でしましょ?」

「…ううん。ここで…いい♥」

娘さんの小鼻が膨らんで
見えるのは気のせいでしょうか?

さわ…さわっ…♡

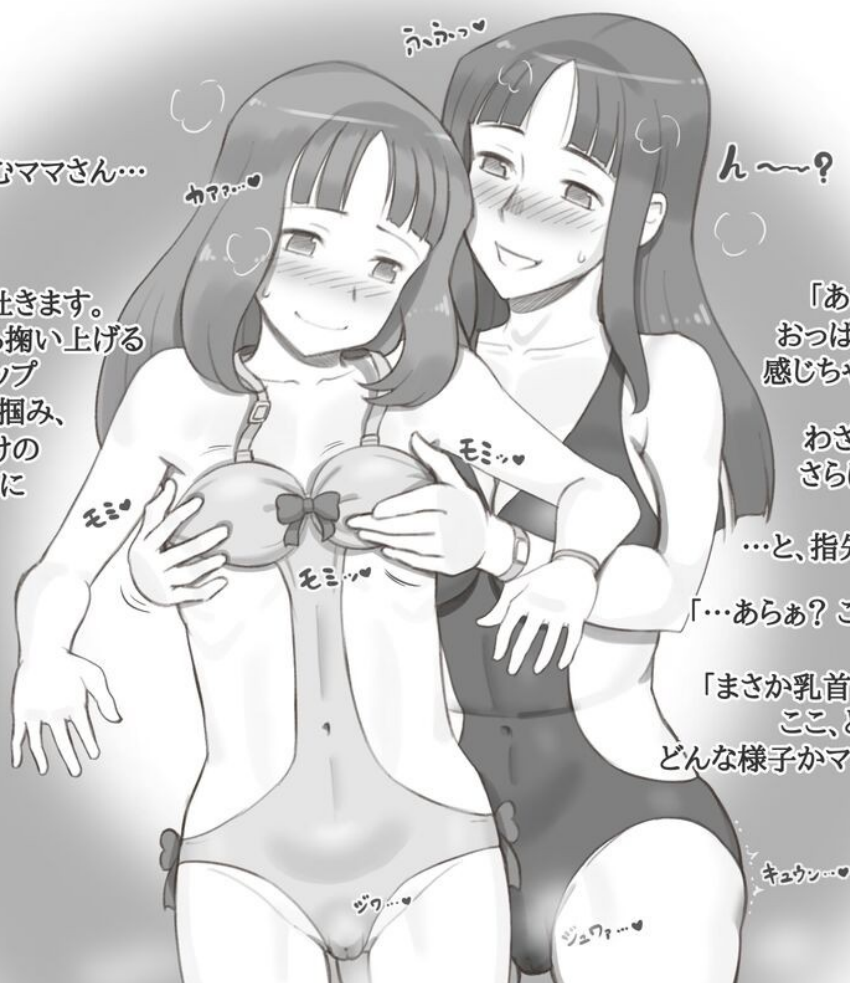
繊細な手つきで胸を揉むママさん…

「ん…ふ」

娘さんが甘いため息を吐きます。
ママさんは乳房を下から掬い上げる
ように持ち上げ、手をカップ
のように被せてキュ♡と掴み、
掌全体でまだ膨らみかけの
肉丘を軽く押し潰すように
こね回しました。

「あふん……♡」

とうとう娘さんが
可愛い鳴き声を
上げます♡



「あらあら、つむぎちゃんったら♡
おっぱいを大きくするマッサージで
感じちゃうなんてイケない娘ねっ♡」

わざとらしくママさんがささやき、
さらにいやらしい手つきで乳房を
愛撫してゆきます。
…と、指先が硬いモノに当たりました。

「…あらあ？ このゴリゴリしたものな〜に？」

「あんっ♡」

「まさか乳首が勃起しちゃったのかしら…
ここ、とってもピンピンして元気よ？
どんな様子かママ先生に見せてみなさい♡」
「は…い、せんせい…♡」

キュウん…♡

ジワ…♡

ジワッ♡

つむぎちゃんが片方のブラを
ずり上げると、初々しい乳首が
現れました♡

まだ色素の沈着していない
サクランボのようなピンク色の
小さな肉豆…

ぷっくらとした乳房は
おっぱいというより
薄い肉まんのように♡

もう何度も見ているのに
それを見た瞬間、ママさんは
思わずため息を吐きました。

(なんてかわいらしい乳首と
おっぱいかしら…♡)

我が娘ながら…いいえ、
自分の娘だからこそ
見惚れてしまいます♡



「コレはとってもシコっていますね、
つむぎさん？こんなに乳首が勃って
いたら痛くありませんか？」

指先でツンツンしながら聞くママ先生。

「あ♡は、はい…すこし、痛い…です」

なぜならこんな場所でママにおっぱいを
見られている興奮でニップルが充血
しているから♡

「それなら治療しないといけませんね。
舌で舐め舐めしていいですか？」

「はい…お願いします…ペロペロして
ください…♡」

「じゃ…いただきます♡」

ママさんの舌先が触れた瞬間、「あっ♡」
と娘ちゃんは息を吐き、小首をクツと
反らせるのでした♡

「あ…ん♥ つむぎちゃんの
乳首美味しい…♥」

ママさんの舌が可憐な肉丘を
這い回ります。
唾液を塗りつけながら乳首の
まわりを舐め、かわいい
ニップルを唇で挟んでシコリ、
チュウツ…と吸い、
口に含んで舌先で乳首の
先端の窪みをほじくりました。

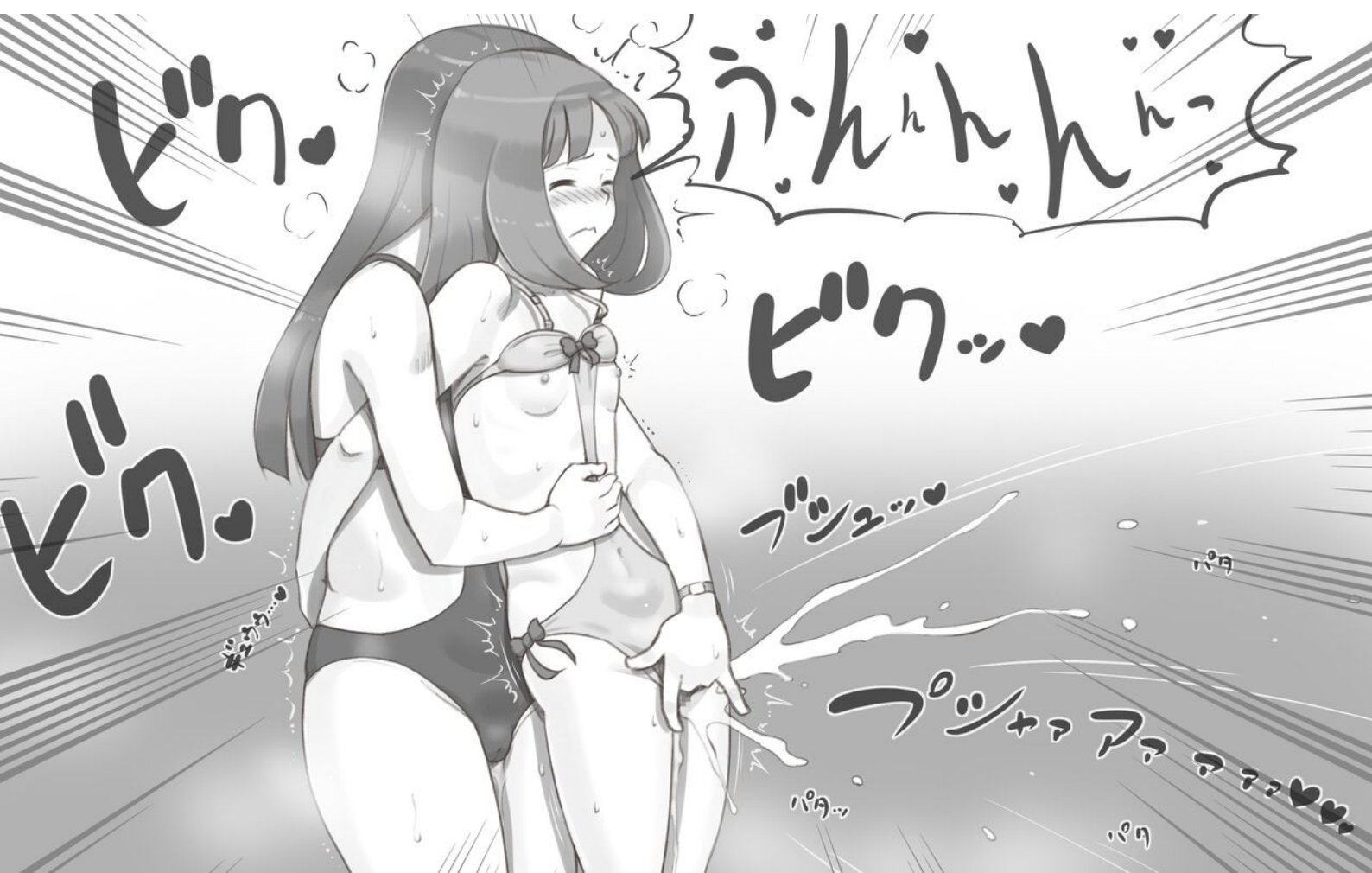
「ああ…♥ ままあ…♥♥♥」

娘ちゃんは立っているのも
やっと…♥

太股がかすかに震え、さっき
濡らした股間からさらに
滲みが広がってゆきます♥

狭い試着室の中は
早くも熱気が漂い、
濃厚なフェロモンで
一杯になりました…♥







少し白く濁った液体が
激しい勢いで射精されました！
飛び散った絶頂液が鏡に当たり
ふたりの姿をトロトロに汚しています♡

(すごいわ…まるでオシッコみたいに飛ぶのね。
若いつて素敵だわ…♡)

感動したママさんは
絶頂に震える娘を抱き締め
熱いキスを浴びせました♡
舌が口中深く蛇のように
絡み、ネトネトの唾液を交換して
お互いのを飲み干します。

ママさんが膣道に残った愛液を
掻き出すと、さらにアクメに
襲われる娘ちゃん…♡

めくるめく快感に彼女の
全身は小刻みに
わななくのでした…♡



ふたりがこんな風になったのは
訳がありました。

ある日ママさんがなんの気なしに
つむぎちゃんの部屋へ入った時
なんと自分の娘がオナニーを
している真っ最中でした。

まだ覚えたての自慰に夢中の
つむぎちゃんはママさんが来る
気配に気がつかなかったのです。



ママさんはふしだらな娘を
叱るかわりに優しくオナニーの
仕方を教えてあげました。
これも性教育の一環と思っ
てのことです。

おかげでつむぎちゃんは母親の
手マンで生まれて初めて
アクメへ導かれ
潮を吹いて絶頂したのです♡

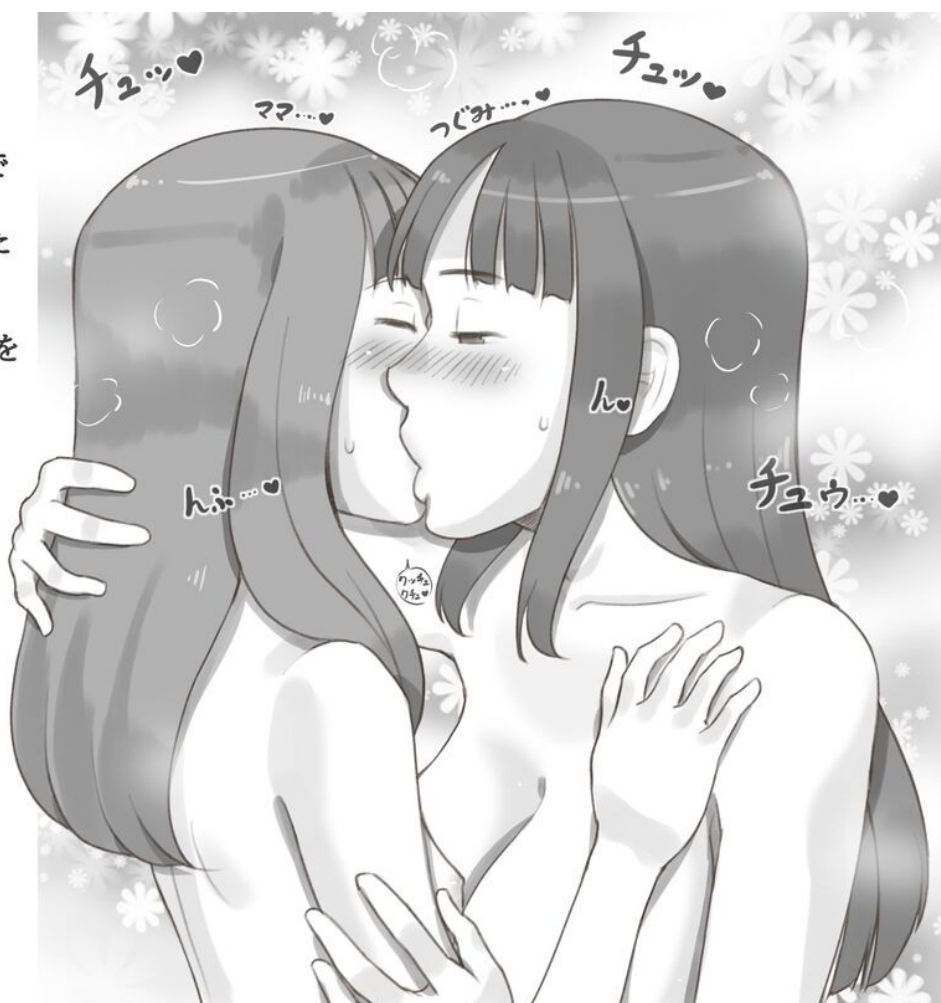
以来、娘ちゃんはママさんの
指テクにぞっこんで
いつもおねだりするよう
になりました♡♡♡

偶然の出来事で
エッチな関係を持
つようになった
母娘…

ふたりはお互いを
食い合うように
なったのです。

娘ちゃんは
ママさんの
エッチな
テクニックに
もうメロメロ♡

大人の手管に
嵌ってしまい
ました♡



一方のママさんは
まさか自分が実の
娘に手を出す日が
来るとは思っても
みませんでした。

でも一度娘を抱くと
そのみずみずしい
肉体に目くらむ
甘美な歎びに
目覚めてしまった
のです…♡

彼女もまた一日も
欠かさず抱くほど
娘の虜になって
いました♡

女の子の体に目覚めたママさんは自分の娘に
恋心を抱いてしまいました♡
そして娘ちゃんも自分の母親の愛撫を
なによりも待ち焦がれるようになったのです♡

つぐみちゃんはママに処女まで捧げ
愛してくれることを願いました♡

そしてママさんはもう
娘を手放せなく
なったのです♡



こうしてふたりは本物の恋人同士になっていました…♡♡♡♡



「あん♡ すっかり濡れてしまったわねっ♡
待ってて、ママが綺麗にしてあげるから...♡」

ママさんは雌犬のように四つん這いになると、娘ちゃんの残り液でテカる
オマンコを舌でお掃除し始めました。

「マ...ママ、そこ、汚いから...っ♡」

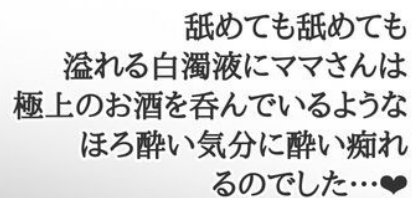
そう言いながら娘ちゃんはちつとも腰を
引こうとしません。なぜってママの舌遣いが
大好きだから♡

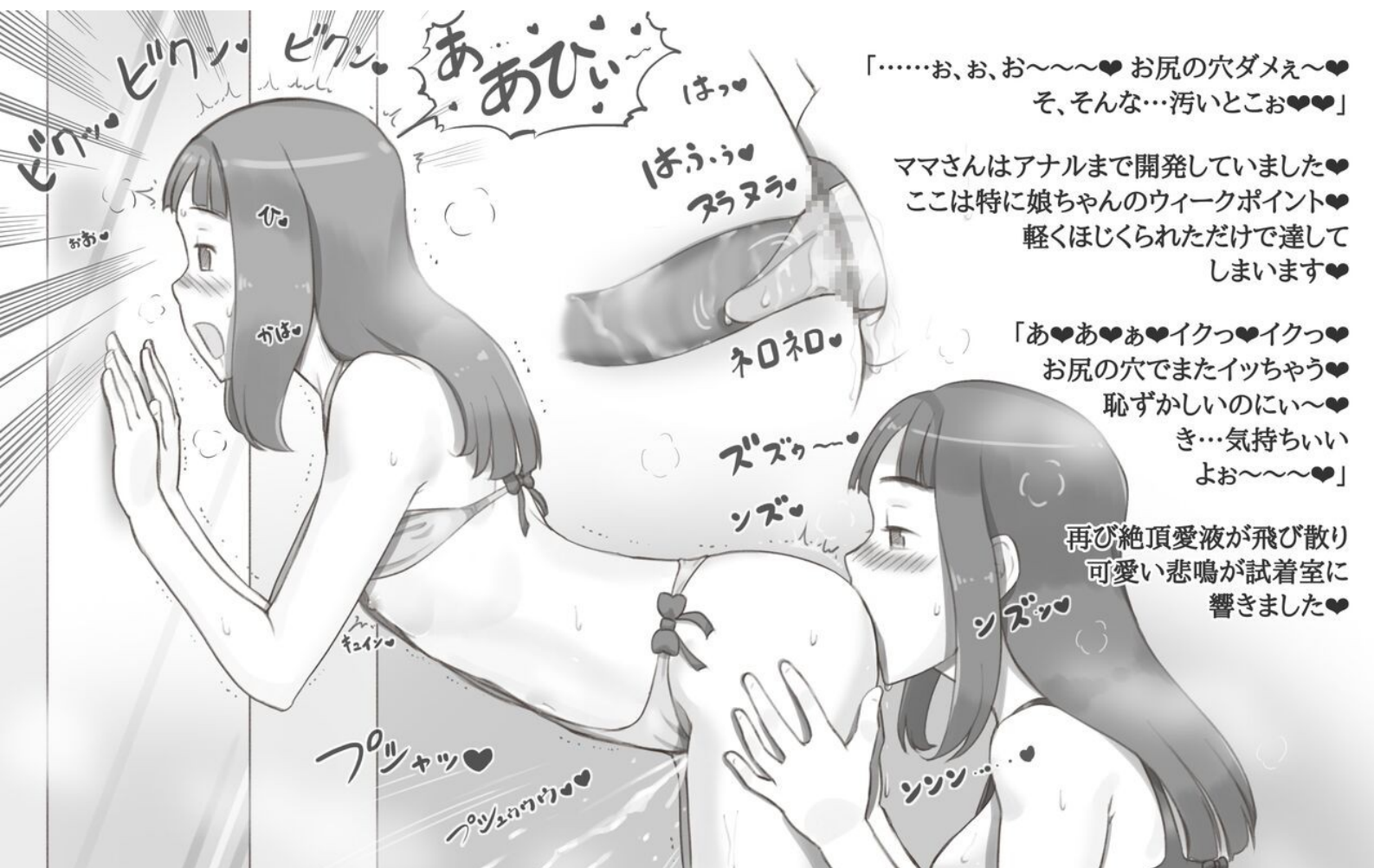
ママさんはオシッコ臭い洗ってもいけない
オマンコにむしゃぶりつきました♡
なぜなら彼女は娘のオシッコが
大好きなのです♡
臭いを嗅ぐのも舐めるのも好き♡
娘ちゃんのおかげで今では
オシッコを飲むことさえ
好きなのでした♡

ママさんは舌先を深々と膣内へ埋め込むと、器用に膣道をほじり始めました。ヌレヌレとぬめる実の娘の性器を味わうのは天にも昇る心地…♡

そしてママさんの執拗な愛撫に
出尽くしたはずの愛液が
再び溢れ出てきます♥
ママさんは口を
大きく開いて
肉ピラを覆うと
大きな音を
立てながら
娘の白濁液をバキューム
するのでした♥

チュルピチャ♡





「……お、お、お〜〜♡お尻の穴ダメえ〜♡
そ、そんな…汚いところ♡♡」

ママさんはアナルまで開発していました♡
ここは特に娘ちゃんのウィークポイント♡
軽くほじくられただけで達して
しまいます♡

「あ♡あ♡あ♡イクっ♡イクっ♡
お尻の穴でまたイツちやう♡
恥ずかしいのにい〜♡
き…気持ちいい
よお〜〜♡」

再び絶頂愛液が飛び散り
可愛い悲鳴が試着室に
響きました♡

—— 今度は
娘ちゃんのターン♡

「ねえ、ママん…おっぱい
ちょうだい〜♡」
「んもう♡赤ちゃんじゃないでしょ♡
お姉ちゃんがおっぱい欲しがるなんて…」

言葉とは裏腹にママさんの目が
早くも潤んでいます♡
先程から娘を
攻め続けたおかげで
自分の体も興奮
状態…すでに
受け入れ態勢は
出来ています。

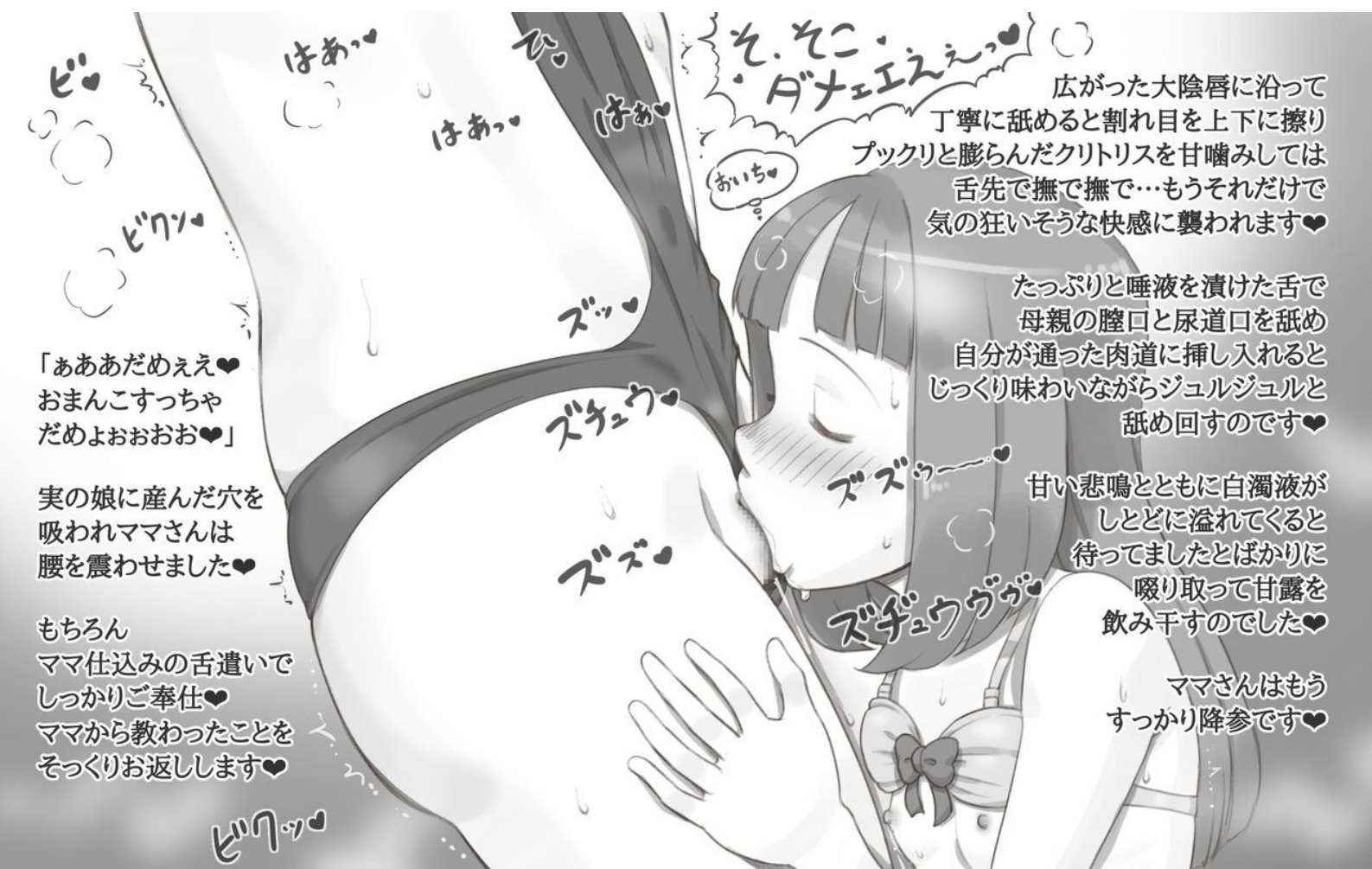
「ひっ♡」

ガチガチに勃起した
乳首をひと舐めされた
だけで軽いアクメが♡

「あん♡はあん♡ つむぎちやあん♡
そ、そんなに激しく吸わないでえ♡
も、もっと優しく…っはあああん♡」

驚いたことに
娘に吸われるようになってから
母乳が出始めました♡





もう こうなると水着どころではありません。

ほとんど全裸でふたりは狭い試着室の中で
愛し合いました…♡

ムツとする体臭と愛液の臭いが充満し
クチャクチャと互いの性器をいじり合う
卑猥な音が響き渡ります。

体が求めるまま母と娘は
肉欲に溺れたのです……♡♡



「♪ママっ、アレしよ、アレっ♡♪」
つむぎちゃんがおねだりします。
「え…ここでアレを使うの？
もうエッチな子ねえ…♡」

そう言いながら
バッグから
取り出したのは
奇妙な形の棒…
そう、双頭ディルド
です♡

レロっ♡

ふたりはいつもコレで
楽しんでいました。
出掛けた先で興奮する
ようなことがあると
よくコレで鎮めるのです♡
今日もつい持ってきて
しまったのです♡

「よ〜く舐めて濡らしてね♡」

ふたりは慣れた仕草で
愛用のディルドを
ペロペロ舐めたのです♡

メルっ♡



「…つむぎちゃん
痛くない？ 気持ちいい？」

ママさんがゆっくりと
腰を動かします。

慣れているとはいえ
娘ちゃんはまだまだ
発展途上…
母親らしく娘の体を
気遣うのです♥

「…うん♥ 気持ちいいよ♥
だからもっと動かして…え♥」

ママさんの優しさに胸キュン
するつぐみちゃん。
そうすると快楽係数がグッと
上がるのです♥
激しく動きたいのを我慢する母親に
かえって欲情をそそられる
のです…♥



「…はふっ♥はひっ♥
ああん、丸見えええ♥」

興奮しながらも羞恥に顔を赤らめる
母と娘…♥

あ.あ...あ.あ♥

ふたつの谷間にいやらしい形の橋が掛かり
腰を打ち合わせるたびに
股間へ呑み込まれてゆきます♥

奥まで達する太いペニスに
ふたりは嬌声を上げました♥

ズチュッ♥

ズチュッ♥

お互いの動きが相手への攻めになり
同時に自分への快楽になるのです♥

ズチュッ♥

ズチュッ♥

ママさんと娘ちゃんはしっかりと
抱き合いながら腰をぶつけ合っ
ていました♥♥

腰使いは
ますます激しく
淫靡になっ
てきました♡

パァン

パァン

パァン

柏手を打つように
お尻とお尻が派手な音を立て
それに負けないくらい
艶やかな声が上がります♡
フィニッシュが近いのです♡♡

パァン

パァン

「マ…ママア♡つむぎイツちやう♡もうイツちやうううう♡♡♡」

「マ…ママもよう♡い、一緒につ、いっしょにいいいいいい♡♡♡」



—— やつと
欲望を鎮め
我に返った
ママさんは
青くなりました。

(ああ…どうし
ましよう。売り物を
汚してしまったわ。
それに試着室まで…
きっとアノ声
聞かれていたわ
よね…)

試着室の中は
汗や分泌液の
濃厚な匂いで
満たされています。
もはや誤魔化しは
効きません。

はぁ♡

はぁ♡

後悔先に立たず…とはいえ、娘の抗い難い可愛さについつい先走ってしまうママさんなのでした。

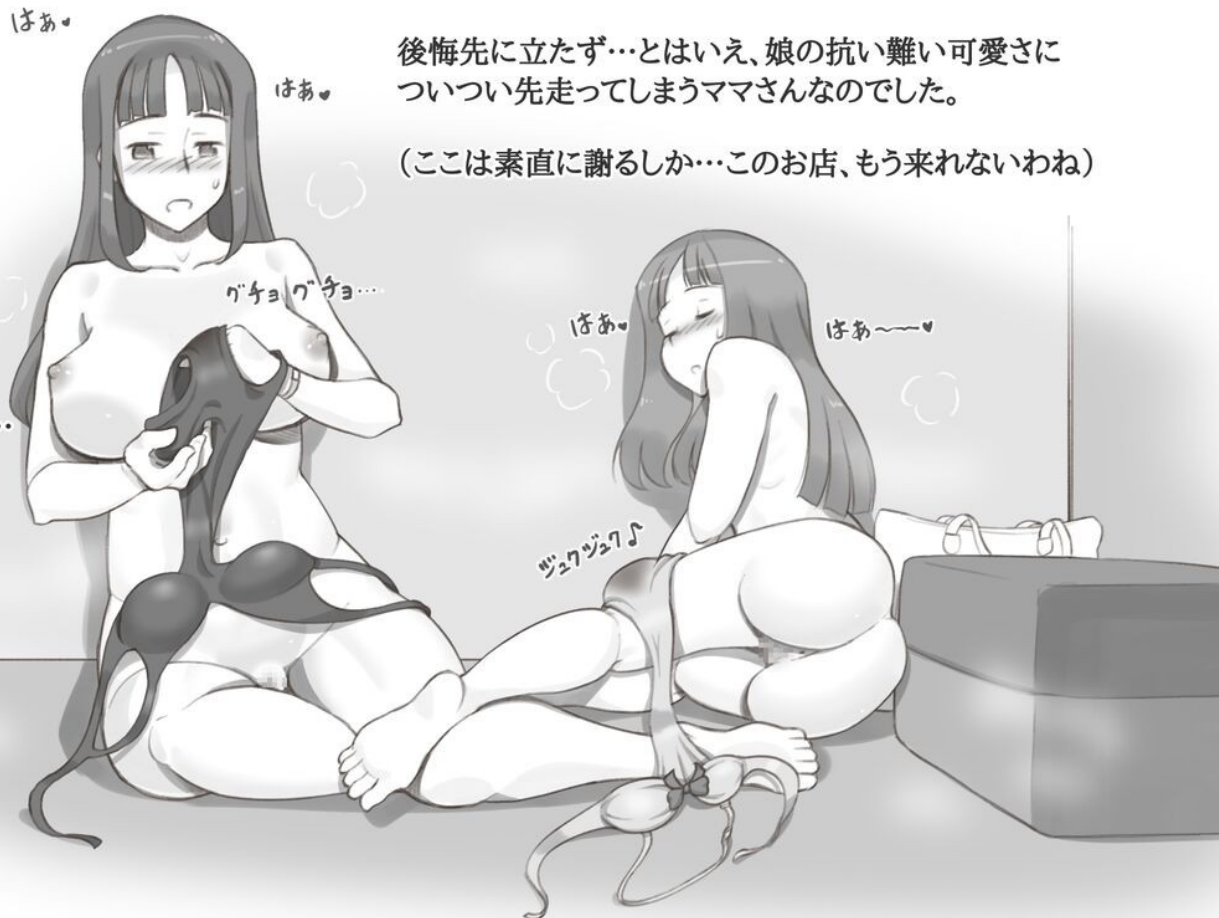
(ここは素直に謝るしか…このお店、もう来れないわね)

グキョグキョ…

はぁ♡

はぁ〜♡

ツクツク♪







わたしたち
応援してます！

これからも
どうぞ
ごひいきに〜♪

ぜひ
またの
ご来店をっ！



♡あ〜〜
おやこ
母娘百合の
香り…



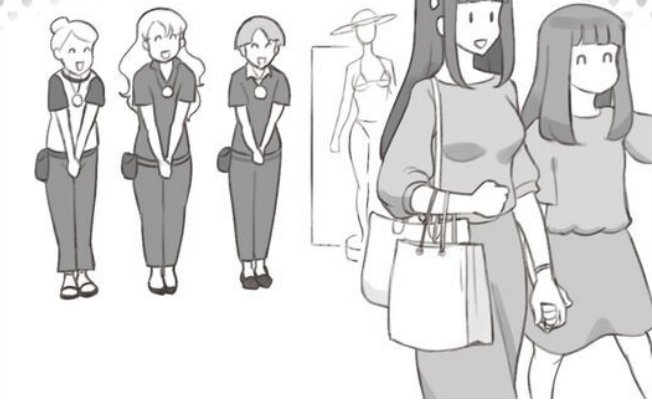
あの…



がんばって
ください！
ぎゅ♡



ありがとうーございましたー♡
あーこれ
なかったー♪



すごっっく
癒されるう〜♡

「—— つむぎちゃんっ!!」
「—— ママっ!!」

突然ママさんが娘ちゃんを
押し倒しました。
素早く下半身を剥き出しに
するといきなりレズSEXを
始めます!

お店での出来事に
すっかり興奮した
ふたりは家へ帰る
道のりでも発情して
いたのです♡

玄関先だというのに我を忘れ
すでに濡れそぼった股間を
乱暴に擦り合い、舌を絡めて
慰め合います♡♡

その夜は一晩中雌交尾に耽り
翌日も休みを取って一日中
SEXに狂ったのでした…♡♡♡



——さて一方、
店員さんたちは
昼間出逢った母娘の
アノ声を聞きながら
レズSEXに没頭して
いました♡

お互いに体を食い合い
交代でペニバンを突き
仲良く楽しんでたのです♡

「はぁ♡はぁ♡レズ母娘の
あえぎ声かわいいつ♡
マジ興奮するっ♡」

「あん♡ 葵ちゃんも静香ちゃんも
今日は張り切ってるわねっ♡
私もがんばらなきや♡♡♡」

三人は夜更けまで
欲望をぶつけ合った
のです♡♡♡





洞窟の中に潮騒がこだまします。

「…チュツ♥ チュツ♥ んん……
つむぎちゃ、んっ♥ そ、そろそろ…
チュパッ、レロレロ♥…泳ぎにイカ
ないっ…と♥んん♥」

「♥ちゅるちゅぱ♥…はあはあ…
ね、ママ、しょう?…♥」

「こ、こんな所で…? あん♥」

「誰も来ないよ、ここまで…ね〜え、
おねがい…♥♥♥♥」

「♥ん、もう♥エッチな子ねっ♥
し、仕方ないわね…♥♥♥♥」

そういうママさんも荒い息をしています。
ふたりは互いに手を掛けると、相手の
水着を脱がして全裸になりました。
そこから先は…♥

結局、せっかくの
水着も海水浴も
そっちのけで
ふたりは長い間
洞窟にこもって
いました。

夏はまだまだ
これからです♥♥♥♥

♥おしまい♥





♡あとがき♡

どうもみなさんこんにちは、みずいろめがねです。
お買い上げ誠にありがとうございます…！

今回は母娘百合ということで可愛いエッチを
目指しましたが如何だったでしょうか。
あんまり卑猥な言葉を使わなかったり（当社比）
プレイもそんなに激しくなかったつもりなのですがw

ところで最近、思春期の女の子がものすごく魅力的に
見えますね。歳を取ったせいかな…
自分が言うのと信じてもらえないかもしれませんが、小●生
くらいの女の子とか、いわゆるセックスアピールとは
全く違った可愛らしさを痛感しています。なんて言う
のか、性的魅力とは全然違う魅力と言いますか…
成長すると他人の目を意識した行動になり、それはそれ
で別の魅力なのですが、計算しない？的な仕草とか
たたずまいとか、目に沁みるような可愛さがありますね。

もっとも、ジロジロ見るのは犯罪なので（特に自分は）
チラ見してハッと胸を打たれる感じで…自分が言うのも
なんですが、彼女たちに幸あれと願ってやみません。
（余計なお世話ですな…（汗）

これからもあくまでフィクションで母娘百合を描きたい
ものです。それでは〜〜〜♡

